

馬番	馬名	性	馬喰	レシピ	父名	父母父	母父	母父系統	祖母父
1	テイエムチュラン	牝			リアルインパクト	セントサイモン系	タイキシャトル	ヒーロー系	ノーザンテースト系
2	フォルテローザ	牝	A	R	サトノアラジン	ストームバード系	Tiz Wonderful	インリアリティ系	ミスプロ系
3	セイウンデセオ	牝			ヴィクトワールピサ	ミスプロ系	パイロ	APインディ系	Dサンデー系
4	ドナヴィーナ	牝			スワーヴリチャード	ファピアノ系	Shamardal	ストームバード系	ダンチヒ系
5	キャンシーエンゼル	牝	B		バゴ	ヌレイエフ系	Sky Mesa	APインディ系	ヒーロー系
6	パッシングシャワー	牡	B		lffraaj	ヌレイエフ系	Frankel	サドラーズ系	デインヒル系
7	ビッグドリーム	牡	B		ビッグアーサー	キングマンボ系	Tale of Ekati	ストームバード系	レイズアノ系
8	メイプルギャング	牡	AA		War Front	ファピアノ系	Rahy	ブラッシングG系	ニジンスキー系
9	ミルテンベルク	牡	AA		モーリス	サドラーズ系	ディープインパクト	ディープ系	ハンプトン系
10	アスクワンタイム	牡	A		ロードカナロア	ストームバード系	ディープインパクト	ディープ系	デインヒル系

父の傾向としては、ディープ系とPサンデー系が過去10年で5勝・2着4回・3着4回と好相性です。

米国の中距離牝系や欧州のスタミナ牝系出身馬が走りやすいレース。

1番テイエムチュラン

父はディープ系ですが、牝系が1200m牝系で九州牝系。九州産馬には敷居が高いレースであり、唯一馬券に絡んだのは九州産馬限定OPひまわり賞を1.4倍の1人気で優勝したカシノマスト3着のみ。

ここで高い評価をする材料は特に見当たりません。

2番フォルテローザ

父がディープ系のサトノアラジンで、牝馬の同産駒はコースのレシピに該当します。

ただ、牝系がスピード血統なので、押えますが高評価には及びません。

3番セイウンデセオ

評価ポイントは特にありません。

4番ドナヴィーナ

スワーヴリチャード産駒は、距離不問でめちやくちや走ります。(11・8・6・19/44 勝率25%:単回率133% 複勝率56.8%:複回率112%)

本馬の場合、父が中距離タイプで、牝系がスピードタイプ。父系と母系の距離タイプが、好走配合と逆になりますが、馬券には入れておきたい存在だと考えております。

5番キャンシーエンゼル

父が凱旋門賞馬のバゴ。牝系は日本のダート中距離牝系。血統面では特に押し材料はありません。

ただ母系の配合が、スピードの持続力血統を重ねた配合で、消し材料も特定できません。

6番パッシングシャワー

父は欧州型ミスプロ系の短距離血統イフラージで、

フランスの1200mG1馬ザフォニック産駒になります。

母系は欧州のオークス牝系でスタミナ牝系になります。

サンデー系を持たない配合馬としては
最も高い血統評価に値する配合だと考えております。

7番ビッグドリーム

父はサクラバクシンオーの後継種牡馬ビッグアーサー。

母の従兄弟に米国の中距離G1馬。

全兄のビッグシーザーは小倉では2戦続けて勝てませんでしたが、
中京で未勝利を卒業すると、破竹の勢いでOP特別を3連勝。

どちらかと言うと、小倉1200mのような
テンが速くなりやすいコースよりも、福島のような
登りスタートで、テンが掛かる方が向いている印象。

本馬自身もデビュー戦圧勝は福島の1200mで、
テン3Fが35秒台と言う1200mらしからぬ遅いペースでのもの。

人気になるようですが、あまり信用しておりません。

8番メイプルギャングの母(父ラーイ/ブラッシンググルーム系)は、
全姉に米国古馬牝馬チャンピオン(中距離)スカイビューティ(父ブラッシンググルーム)。
祖母はニジンスキーの直仔で、曾祖母はミスタープロスペクターの直仔。

そして、米国型ノーザンダンサー系種牡馬産駒は
2歳戦ならダート牝系でも芝短距離で走ります。

9番ミルテンベルク

モーリス×ディーピンパクトの配合は
1200mなら新潟や中京の左回りで良く走ります。

牝系はドイツのオークス牝系で、
一応は欧州のスタミナ血統になりますが、
ディープ×アカテナンゴの配合ですと、
末脚が活きるコースや展開に向いており、
小倉2歳Sの好走イメージとは少々ズレる印象です。

10番アスクワントタイムは、全兄に当レース勝ち馬の
ファンタジスト、全姉ボンボヤージュは当コース重賞ウイナー。

牝系ファミリーは1200mのスペシャリストですが
距離の融通が利かない訳ではなく、中距離でも結果を残しています。

ロードカナロアは芝1200m重賞のリーディングサイアーであり、
兄弟馬の実績からも軽視する訳にはいかない存在です。